ライフパックの再使用について

藪原・藪原担当区事務所○千　村　幸　夫
南　坂　博　和

要　　旨

カラマツの春植作業に当って，カラマツ苗木を現地仮植すると，植付作業後半に入り苗木の芽ぶきが活発になり，活着率等に影響を及ぼすので，ヒノキ苗木梱包に使用したライフパックを，自署に所在する旧森林鉄道のトンネルに，一時保存し，カラマツ苗木の梱包に再使用して，芽ぶきの抑制を図り，現地仮植の省略，活着率の向上等をこころみたものである。

は　じ　め　に

当署の人工林の現況は，ヒノキ26%，カラマツ71%，その他3%となっており，近年は可能な限りヒノキを植栽する方向で検討をしているところである。61年度はヒノキ15ha　5万本，カラマツ62ha　12万本の植栽実績である。藪原は，木曽川の源流で，標高1,030～2,446m，平均1,550mで，融雪も遅いため植付の時期が短かく，適期に植付を終了するのに苦労が多く，ややもすると芽も相当ふいた苗木も植えている実態にあったので，以前より松本営林署管内の稲核地籍にある風穴の利用，当署の旧森林鉄道トンネルの活用等，苗木の取扱いには細心の注意をはらい植付してきたところである。

昨年もヒノキ，4月14日～5月12日，カラマツ，4月28日～5月28日に植付られており抑制苗木を時期に応じて，組合せて使用しても短期間の現地仮植を行っている実態である。特にカラマツについては，植付時期が遅れると，芽ぶきにより活着率が著しく悪くなる。このようなことを少しでも解消できないかと考えた結果，1回で使い捨てになるヒノキ苗木梱包用のライフパックをもう一度使用し，トンネル内で仮貯蔵状態のカラマツ苗木を，ライフパックに二重に梱包し，仮植を省略した植付を考えたところ効果があったので発表する。

再使用したライフパック　5枚，カラマツ苗木　2,000本，面積　1haについて行った。

I　実行経過と結果

1．ライフパックの使用期間について

表―1のとおり初回は苗木を掘取り梱包，植付まで17日間，保存は初回期間の物を回収しトンネルに9日間，再使用はカラマツ苗木梱包から植付まで17日間，初回から最終植付まで43日間。

2．カラマツ苗木の取扱い方法

(1)経常の方法

前年秋に苗木を掘取り，松本営林署管内稲核地籍の風穴に貯蔵し，翌年春4月に林鉄トンネル内に運搬仮貯蔵して適期作業に運搬現地仮植し植付作業に入る。活着率は97%であった。

(2)ライフパック使用の場合

林鉄トンネルへ運搬までは，経常と同じであるが，この時に保存中のライフパックで，カラマツ苗木を梱包し仮貯蔵して，必要なとき，必要なだけ運搬し，現地仮植を省略して，植付作業を行う。活

表－1　ライフパックの使用期間

初　　回	保　　存	再　使　用
4月2日～4月18日 ヒノキ苗木 梱　　包	4月19日 ～ 4月27日 （回　収）	4月28日～5月14日 カラマツ苗木 梱　　包
掘　取～植　付 17日間	トンネル内 9日間	梱包～植付 17日間

表－2　カラマツ苗木取扱い方法

経　常　の　方　法	ライフパック使用
苗　木　の　掘　取	苗　木　の　掘　取
苗木の運搬，貯蔵（風穴）	苗木の運搬，貯蔵（風穴）
苗木の運搬，仮貯蔵（トンネル）	苗木の運搬，仮貯蔵（トンネル） ライフパックに梱包
運　　搬	運　　搬
現　地　仮　植	
植　　付	植　　付

着率は99%であった。

II　まとめ

1．芽ぶきの抑制

(1)　植付適期が長くなる

(2)　活着率が向上，通常の場合97%

2．作業能率の向上

(1)　現地仮植の省略

(2)　苗木の取扱いが容易

(3)　小運搬の回数が減少

3．再使用による経済性

以上の利点が得られた。

おわりに

ライフパック使用による安全な期間，限度は約1ケ月と言われているが，保存方法，保存場所，気温，湿度等により期間は左右されるが，短期間であれば，再使用は可能である。今後はヒノキ植付と組合せ，実行して参りたい。